

## ちょっと気になる話

### 溶鉱炉のにおい

井上 道雄

(名誉会員 名古屋大学名誉教授)

東海地方に、溶鉱炉のある製鉄所が出来たのは、戦後約20年もたってからである。それまで、もともとこの地方は、工業地区として発展すべき素地があったにもかかわらず、鉄鋼業に関しては、後進性が強かった。伊勢湾沿いに、新たに臨海製鉄所として、東海製鉄(株) (のち、富士製鉄、現新日本製鉄) の名古屋製鉄所の建設がきまったのは、昭和33年のことであるが、実際に埋立が始まったのは、昭和35年で、溶鉱炉に火が入ったのは、やっと昭和39年になってからであった。

私が大学を出て名古屋に来たころは、航空機産業が栄えていたものの、この地方には、製鉄所と呼ばれるものはなく、大同製鋼(現大同特殊鋼)と愛知製鋼があるのみで、電気炉製鋼が行なわれているだけだった。そこには、学生時代、実習を通して体験した、溶鉱炉のにおいはなかった。何か大事なものが一つ欠けている思いがした。私が溶鉱炉にこだわるのは、学生時代初めて溶鉱炉の前で夏季実習をしたときの印象が強烈だったからである。そのころ——昭和10年代、冶金学科の学生だった私は夏季実習で、八幡製鉄所の溶鉱炉で、何日かを過した。石炭のスズで、あたり一面黒ずんでいる、高炉事務所の一室で、私達は先輩の方々から講義や説明をきいた。何しろなかの見えない溶鉱炉である。将来、いつか私も、この巨大な生きもののような溶鉱炉と取組む日が来るかも知れない、と先輩の話をききながら、火花の散る出銑作業を見つめていた。流れ出る溶銑が頬に熱かった。私は大学を出て、製鉄所に勤務するようになったら、技術者として現場でどのような仕事をするのか、と関心をもっていたが、たまたま、事務所の中の先輩の机の上に、読みかけのStahl und Eisen誌が置いてあり、用箋に要点を翻訳

して書きとってあるのを見て、深い感銘をうけた。溶鉱炉の前で、むずかしい(少なくとも私にはそう思えた)ドイツ語の文献を読んで勉強しておられるとは、予想もしていなかったからである。

御年輩の方々はよく御存知のように、かつて旧制大学の時代には、冶金学科の学生には、夏季休暇中の実習は大変重視されていた。私達は、現場の実習を通して、自ら鉄冶金学とは何かを学ぶよう、訓練を受けて来たし、3年生の夏休みは、たっぷり1ヶ月(昔はもっと長かったという)を製鉄所で過ごすのが常であった。実習が終わってから提出する実習報告書は、卒業論文と同等に取扱われ、立派に製本されて、教室の書架に並べられていた。

大学制度も新制大学と変り、その後の学生数の急増に伴って、このような実習をつづけることが困難となってしまったが、大学で鉄冶金を専攻するものにとって、近くに、溶鉱炉のある製鉄所がないということは、さびしいばかりでなく、研究上はもちろん、学生の教育にも至極不便であった。私は毎年、講義の補習の意味で、学生をつれて、広畑製鉄所まで足を運んだ。まだ、新幹線のない時代で、片道数時間かかったが、それでも広畑が一番便利だったからである。広畑では、いつも製鉄部、製鋼部の方々には、大変お世話になった。

その後、名古屋製鉄所は、新日鉄名古屋製鉄所となり立派な近代的製鉄所として整備されるにしたがって、昭和40年代の中頃から、私達の大学との交流も、次第に活発となり、毎年のカリキュラムに、名古屋製鉄所の製鉄部長をはじめ、製鋼部長、技術研究室長といった方々の講義が組み込まれるようになった。また、大学の先生方も積極的に、製鉄所側と交流を深め、大きな研究成果をあげることが出来た。私達の大学も、やっとここまで来た、という思いが深かった。

日本鉄鋼協会東海支部は、昨年創立50周年を迎えた。戦後の困難な時代に、支部としての活動の基盤をつくりあげた、諸先輩を始め、歴代の支部長、支部役員の方々の労を忘れることはできない。名古屋製鉄所を一つの核として、大学とともに、21世紀に向けた、新しい鉄鋼業の発展を期待したい。



### 名古屋大学工学部材料系学科学生の大学入学前後における興味の対象の変化

山内 睦文

(名古屋大学工学部)

名古屋大学工学部材料系学科(材料機能工学科及び材料プロセス工学科)に入学してくる学生が、入学以前に材料関係のどのような分野に興味を持っていたか、その興味の対象が入学後に変ったか、また、変ったとすればその変化の動機が何であったかを知る目的で、平成5年度の学部2年生から修士2年生までの5学年の学生について、次のようなアンケートを取った(どの学年においても、対象学生の90%以上から回答を得た)。

1. 材料機能工学科および材料プロセス工学科に入学した当時、材料のどのような分野に興味をもっていましたか。

- A. 金属素材(鉄鋼や非鉄金属など)の製造
- B. 金属系構造材料

- C. 金属系機能材料
- D. セラミックスなどの無機材料  
(ファインセラミックスも含む)
- E. 有機材料
- F. その他(具体的に: )
- G. とくになかった

2. 入学当時と比べて現在は材料分野における興味の対象が変わりましたか。

- A. 変わった
- B. 変わらない

3. 現在は材料のどのような分野に興味をもっていますか。(設問2でAに○を付けた人だけ回答して下さい)

- A. 金属素材(鉄鋼や非鉄金属など)の製造
- B. 金属系構造材料
- C. 金属系機能材料
- D. セラミックスなどの無機材料